

道路の使い方を体験するイベント（４月１１日・５月２４日）の各結果について

ア エリア内道路の課題解決のアイデアに関するシール投票結果

（４月１１日、５月２４日共通パネルの合計）

1 調査日時 場所 回答数

令和８年４月１１日（土） 午前１１時～午後４時 西新井駅東口駅前 回答数１２３

令和８年５月２４日（日） 午前１１時～午後４時 梅島西公園 回答数１２２

（回答数合計２４５）

2 当日の様子



４月１１日（土）の様子



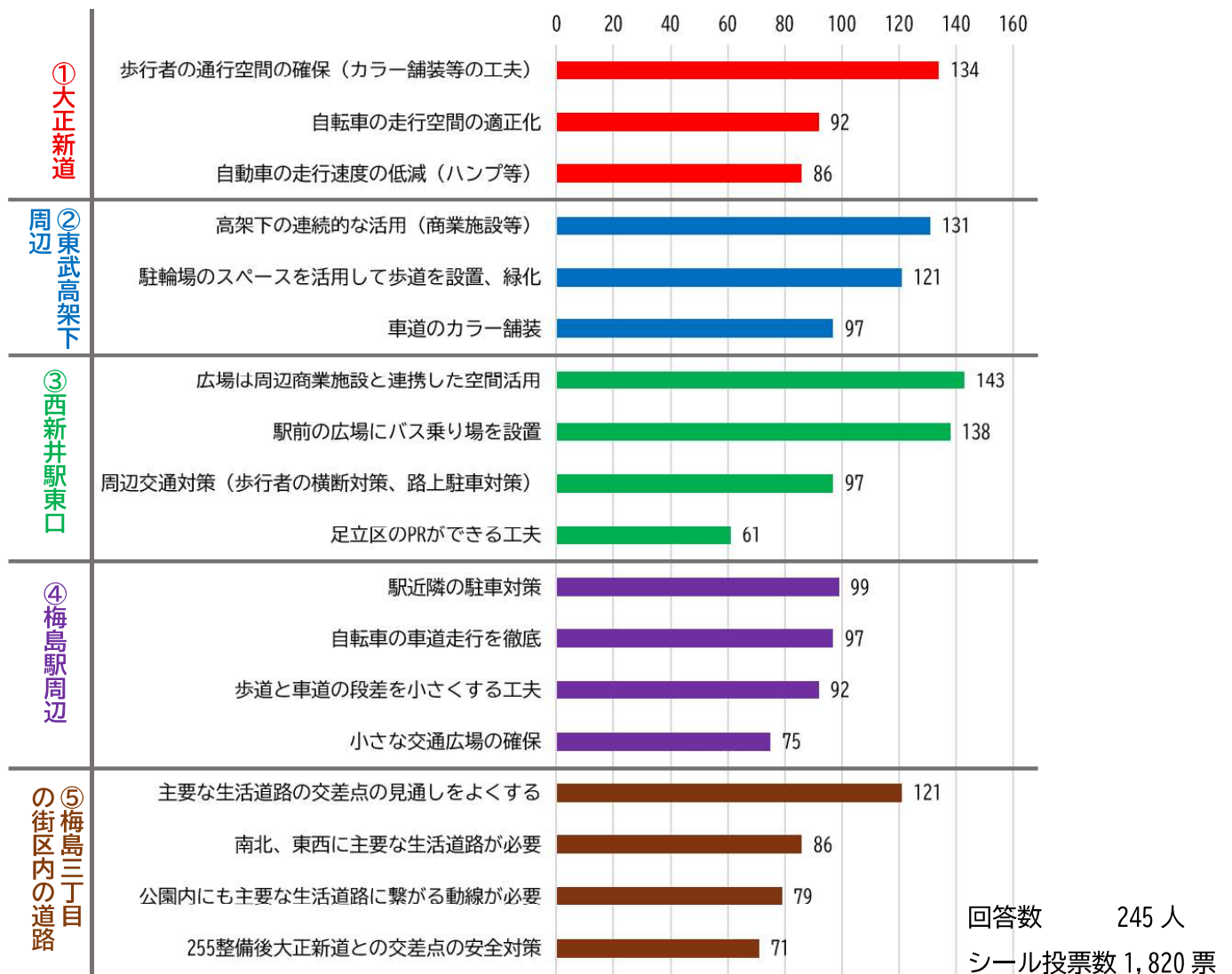
５月２４日（日）の様子

3 シール投票結果

道路ネットワークの検討の一環で、令和7年11月と令和8年1月に地域住民等に参加を呼びかけ、ワークショップを行った。以下の5つのエリアについて、交通機能と併せて重視すべき点と、各エリアの課題解決のアイデアを出し合った結果をパネルにし、賛同するアイデアにシール投票を行った。

なお、記載したアイデアはワークショップで出たアイデアであり、具体的に実施を予定しているものではない。

(票数)



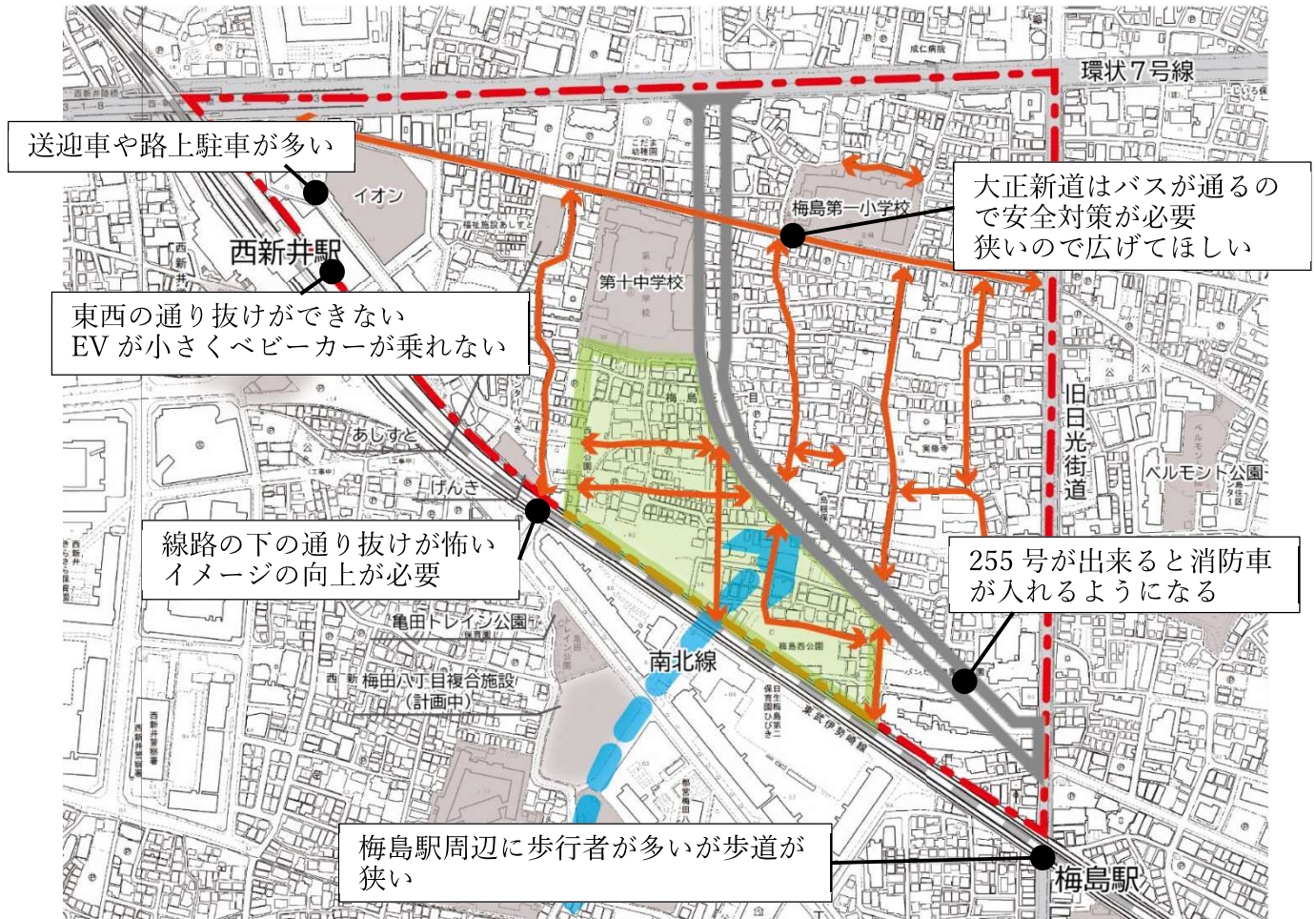
- ① 大正新道：歩行者の歩行空間の確保を求める意見が多かった。
- ② 東武高架下周辺：イメージの向上や魅力的な空間形成を求める意見が多かった。
- ③ 西新井駅東口：交通利便性と駅前空間の活用に関する意見が多かった。
- ④ 梅島駅周辺：交通の安全性と快適性を求める意見が多かった。
- ⑤ 梅島三丁目の街区内の道路：主要な生活道路の安全性を求める意見が多かった。

これらの結果から、歩行者・自転車・自動車の通行空間を確保するのが難しい既成市街地において、それぞれが快適かつ安全に共存する工夫や、地域の賑わいに寄与する魅力的な空間形成が道路整備において求められていることが明らかとなった。

4 エリア内の主要な生活道路に関するアンケート

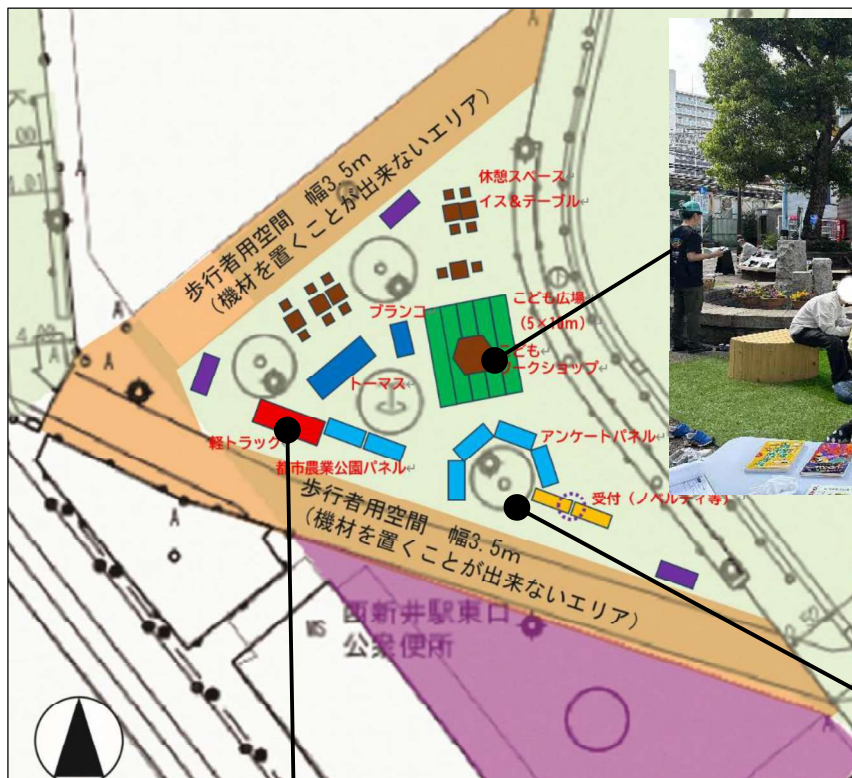
梅島三丁目の地図のパネルに以下のことを記入してもらった。

- ・ どの道を主要な生活道路にすべきか (←→)
- ・ 普段感じていること



イ 4月に行ったにぎわい空間の使われ方の結果

- 1 日時：令和8年4月11日（土）午前11時～午後4時
- 2 にぎわい空間の体験者数：411名
- 3 配置：西新井駅東口駅前の広場



こども広場の様子



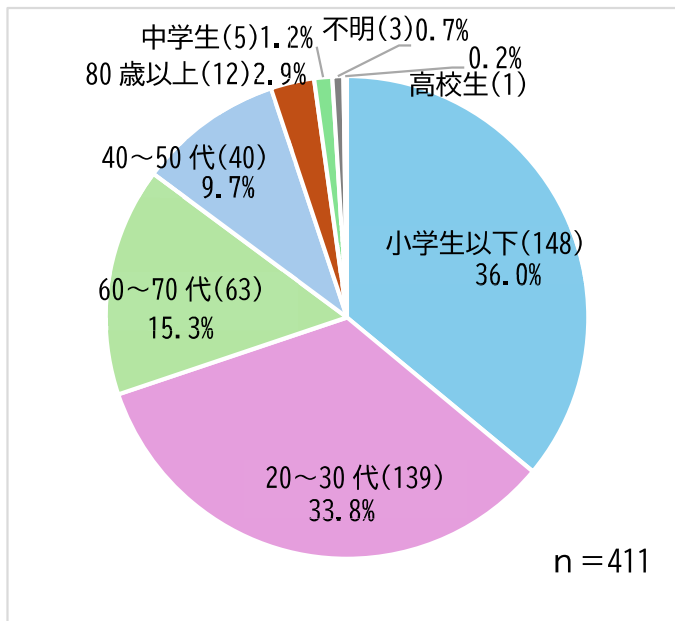
都市農業公園移動販売車の様子



受付・パネルアンケートの様子

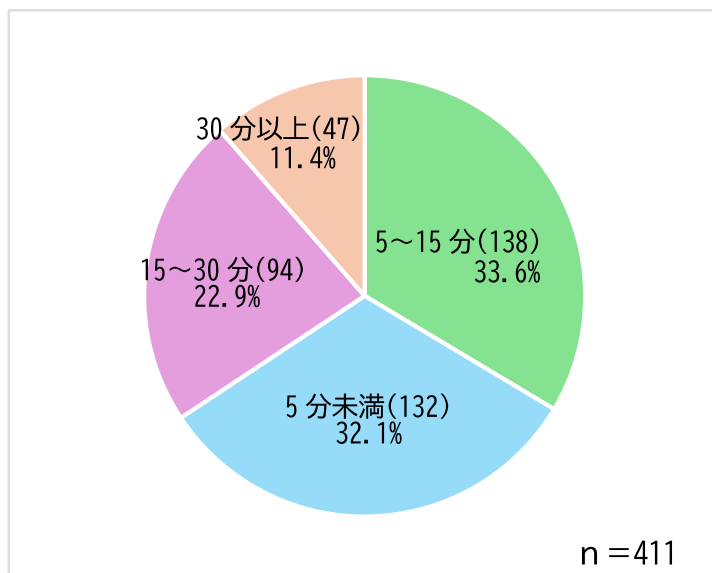
4 使われ方の結果

(1) 年齢別の人数



年代別の人数では、「小学生以下」が148人と最も多く、次いで「20~30代」が139人、「60~70代」が63人であり、親子や「60~70代」の利用が多くみられた。

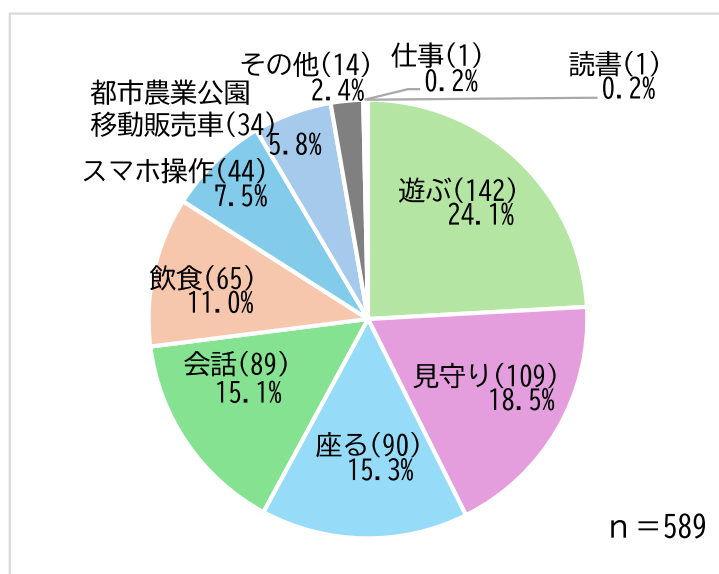
(2) 滞在時間



滞在時間は、「5~15分」が138人と最も多く、次いで「5分未満」が132人、「15~30分」が94人であった。30分以上滞在した人数も47人と一定程度あった。

駅前などの人通りが多い場所では、短時間でも滞在してもらおうことでにぎわい空間が創出できていることが分かった。

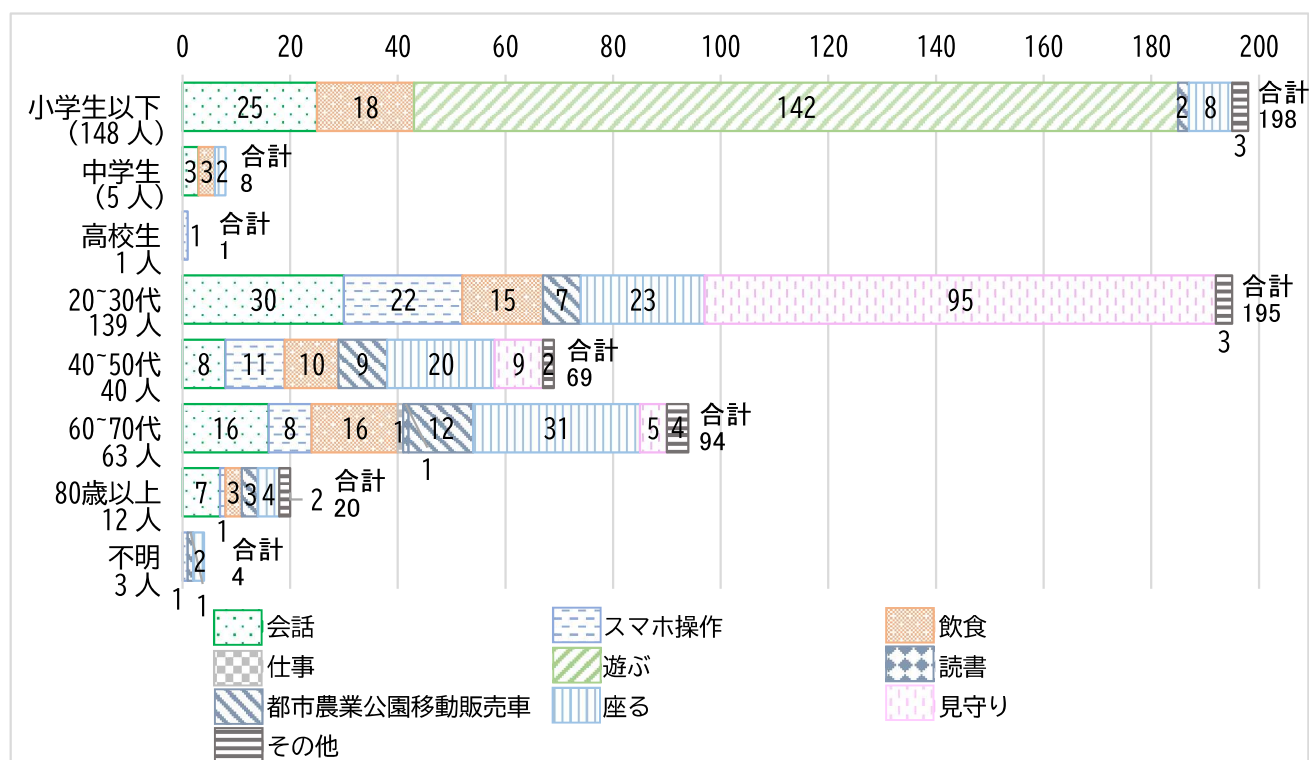
(3) 活動の種類（延べ）



「遊ぶ」142人（24.1%）「見守り」109人（18.5%）となっており親子の利用が全体の約4割だった。次いで「座る」が90人（15.3%）、「会話」が89人（15.1%）となった。

テーブルを設置したため、「飲食」が全体の約1割をしめた。

(4) 年代と活動の関係（延べ）

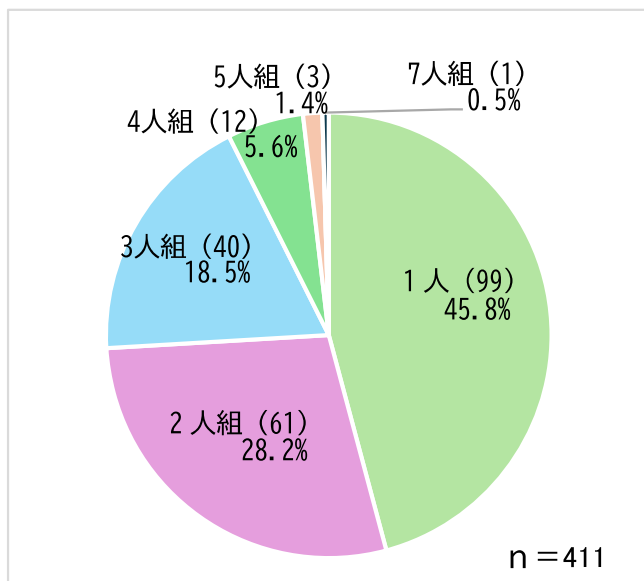


(1) で最も多かった「小学生以下」は「遊ぶ」が約7割、次いで多かった「20～30代」は「見守り」が約5割となっている。子どもは「遊び」に参加し、子どもの親が遊んでいる子どもを「見守る」という滞在が主体となった。

また、「中学生」の「飲食」は約4割、「高校生」「その他」を除く年代では、「飲食」が約1割であり、幅広い世代に「飲食」の需要があることが分かった。

「60～70代」が都市農業公園移動販売車を見たり購入したりする、座って飲み物を飲んで休憩をするといった滞在も一定数見られた。

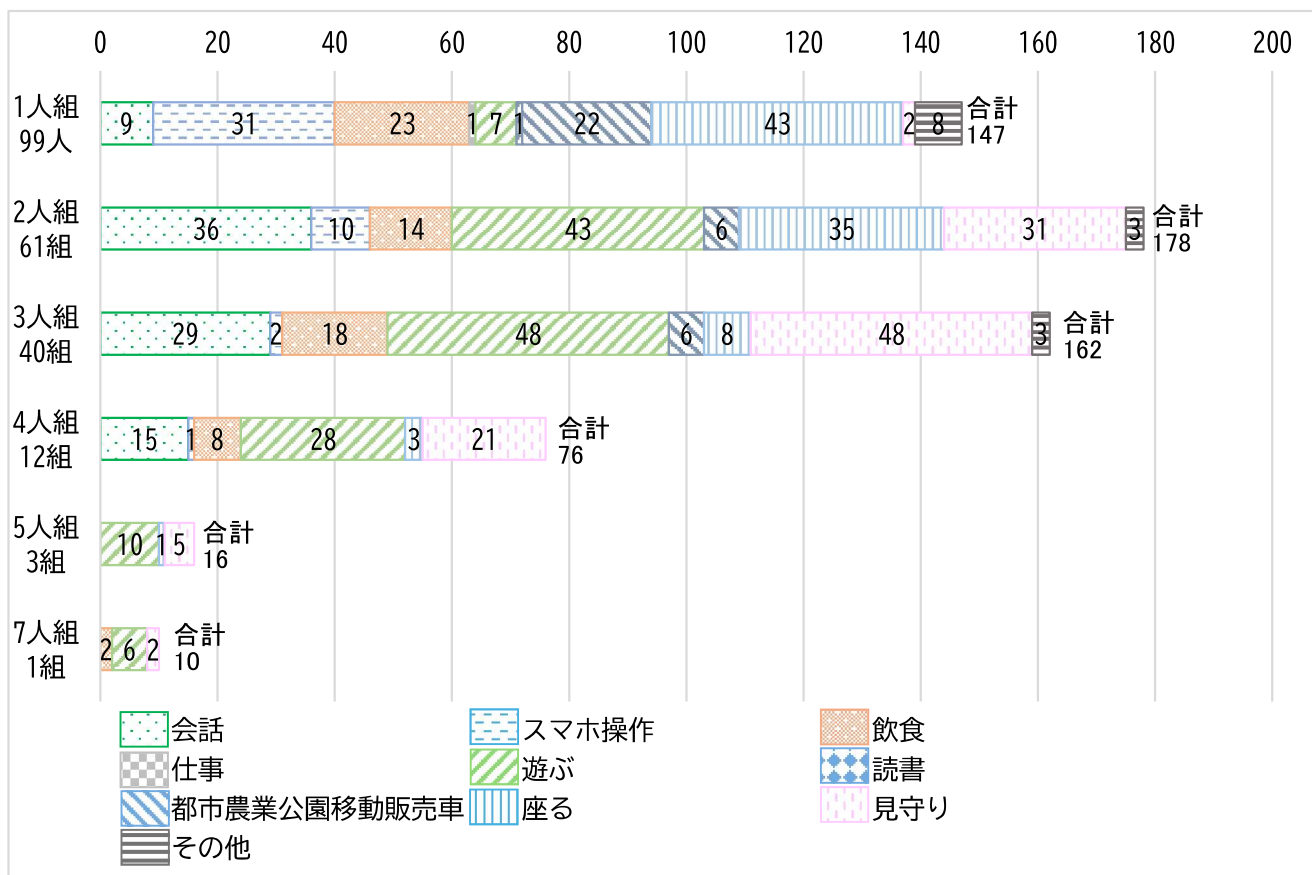
(5) 同行者数



「1人」が99人（45.8%）と最も多く、次いで「2人」が61組（28.2%）、「3人」が40組（18.5%）となった。

単独や、子どもとその保護者での複数人の滞在が多く見られた。

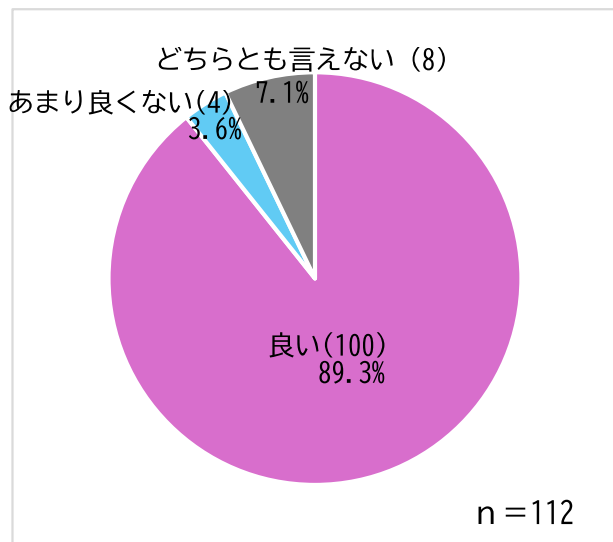
(6) グループ人数と活動の関係（延べ）



「1人」は「座る」約3割、「スマホ操作」約2割、「飲食」約2割が多いが、複数人グループだと「遊ぶ」約2～6割、「見守り」約2～4割といったアクティビティが多く見られた。

5 にぎわい空間のアンケート調査

にぎわい空間の体験者にこのような広場の活用はどう思うかアンケートを行った。



約9割が「良い」と回答した。

「良い」以外の回答をした方の意見としては、「子どもが過ごせる場を提供するのは良いが、不特定多数の方が往来する場所なので、子どもの安全性に問題が生じるのではないかな。安全性に問題がなければ良い企画だと思う。」「駅に向かうまでの通行の妨げになる」という意見があった。

ウ 5月に行った道路の幅員体験のアンケート結果について

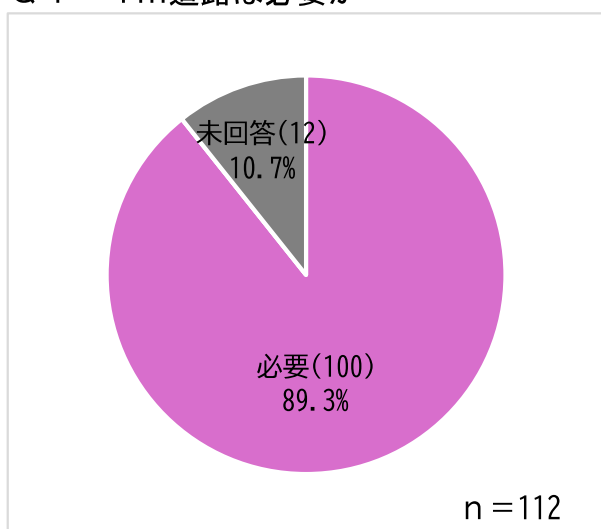
1 パネルアンケート結果

4 m道路、6 m道路のそれぞれが必要かどうかシール投票を行った。

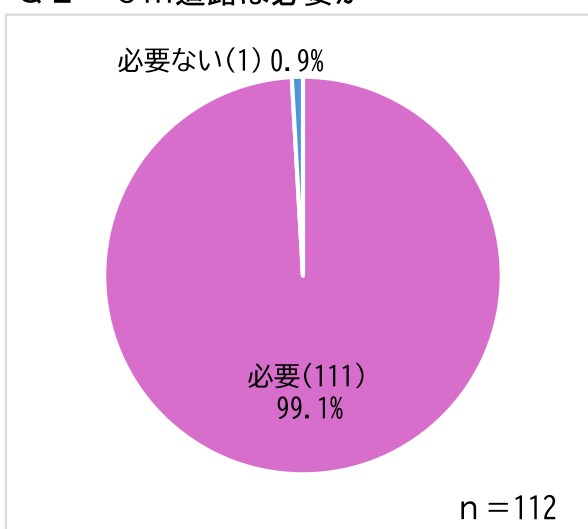
ほぼすべての参加者は4 m道路、6 m道路は必要であると回答し、4 m道路に拡幅する必要があると答えた人数（100 名）より、6 mに拡幅する必要があると答えた人数（111 名）が多い結果となった。

ブロック塀が倒れた道路を実際に見て、歩行者や緊急車両が通れるか体験してもらうことで、4 mおよび6 m道路の重要性を多くの参加者に伝えることができた。

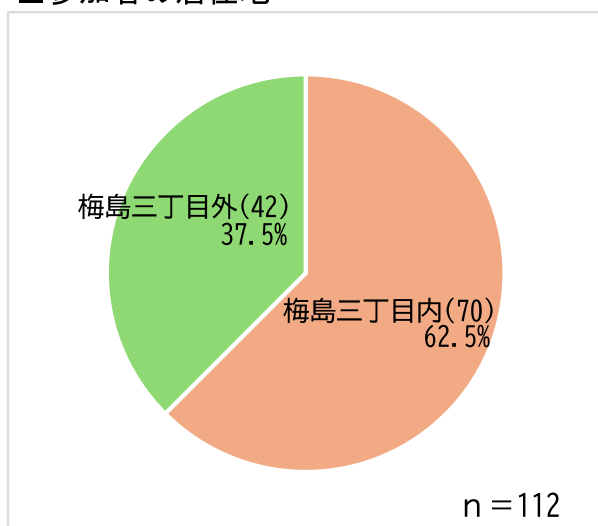
Q 1 4 m道路は必要か



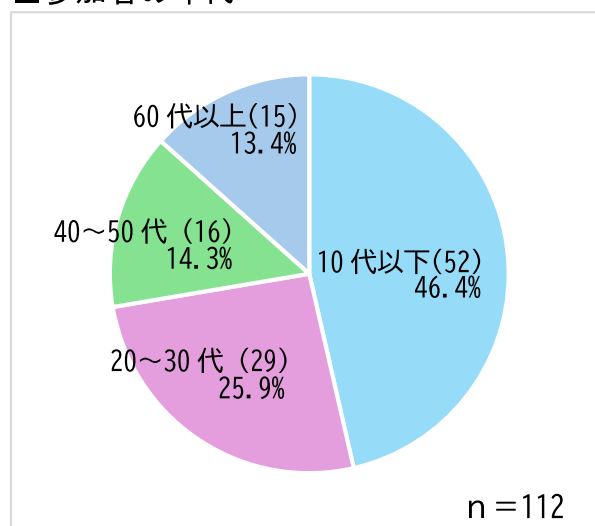
Q 2 6 m道路は必要か



■参加者の居住地



■参加者の年代

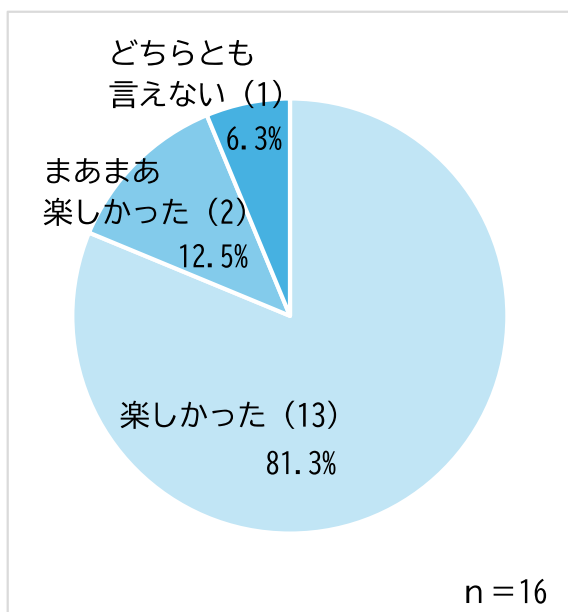


エ 5月に行った逃げ地図ワークショップの参加者アンケート結果

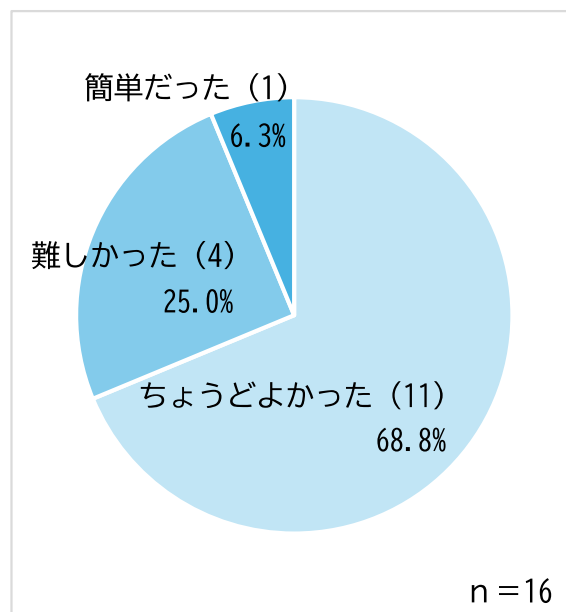
逃げ地図ワークショップには午前に9名、午後に7名が参加し、参加者16名がアンケートに回答した。

アンケート結果から、避難のための道路の重要性を理解したと答えた参加者は87.5% (Q3)、地区内に避難道路が一定間隔で配置されることが必要だと答えた参加者は93.8% (Q4)であった。

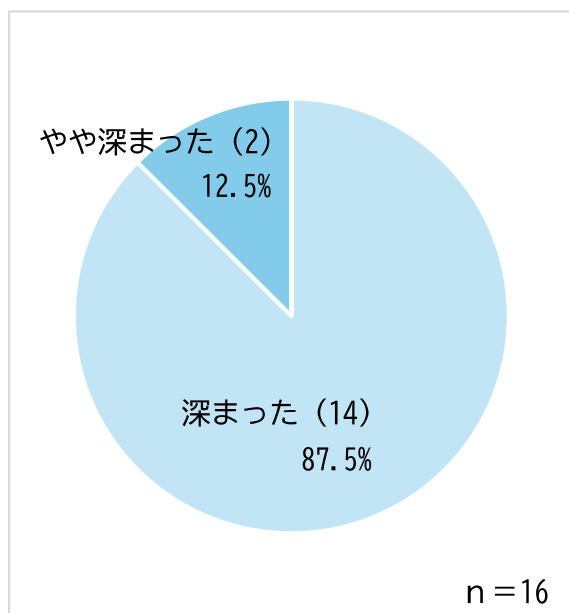
Q1. 逃げ地図ワークショップは楽しかったですか



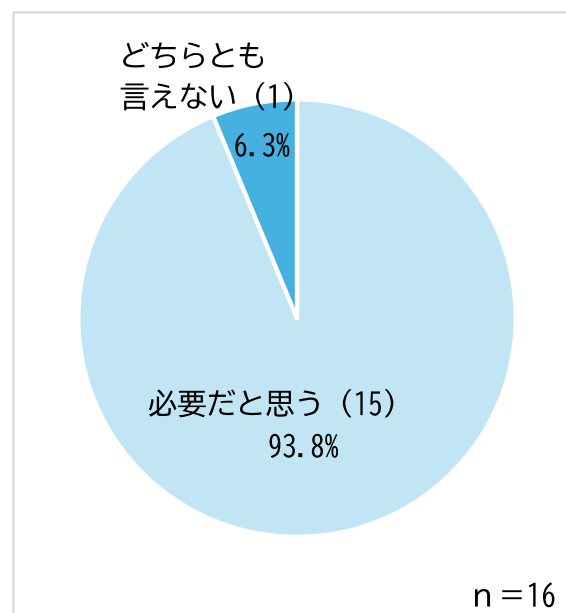
Q2. 逃げ地図ワークショップは難しかったですか



Q3. 逃げ地図をつくることによって、避難のための道路の重要性の理解度は深まりましたか



Q4. 地区内に避難のための広い道路が一定間隔で配置されることについてどう思いますか



Q5. 感想やご意見がありましたら、教えてください。

- ・ 道路が整備される必要性が分かりました。
- ・ 道路のないところにどうやって新設するのか？難しいと思った。見通しの良い道路は避難する時大切だと思った。
- ・ 新しい道路が整備されると便利なだけでなく、安全面でも利点があると知れて良かったです。
- ・ 新しく区道ができることによって避難しやすくなる地域が多くあったことに気付くことができた。
- ・ 改めて避難経路を考える必要性を感じた。
- ・ 災害時の道路について実感を持つことができた。